

友だちとわたし

旭丘小学校 2年
湯澤 美春

わたしは、友だちがいてよかったなと思います。そのりゆうは、友だちがいればたすけてくれます。わたしがはじめて学校に行ってきたとき、友だちから「こわくないよ。」と言ってもらいました。おかげで、ドキドキした気持ちもなくなって、うれしい気持ちになりました。

わたしは、なかよくなりたいたい友だちがいたら、「友だちになろう。」と、言います。あそんでいるうちに、しぜんに友だちになっていることもあります。

友だちがいることで、楽しいことがたくさんあります。あそびをしたり、はなしをしたり、本を読んだりできます。わたしにとって、友だちはたいせつです。

友だちがいなければ、ひとりぼっちで心ぼそいし、かなしいです。だから、友だちとけんかしたときは、いやな気持ちになります。でも、わたしは、さいしょおこっているけど、だんだんあそびたくなります。そういうときは、「どうしてけんかになったのかな。」と考えます。わたしがいやなことをしたときは、わたしから、「ごめんね。」を言います。友だちからいやなことをされたときは、わたしから、友だちにされた、いやなことを言います。そうやってなかなかおります。たまにはけんかすることもあるけど、やっぱり友だちがいてよかったなと思います。

わたしが、友だちをたすけることもあります。友だちがおとしものしたら、いっしょにさがしたり、けがしたときは、ほけんしつまでいっしょに行ってあげたりしました。ほかにも、きゅうしょくでみそしるをこぼしたとき、いっしょにふいてあげました。これからも、友だちがこまっていたら、たすけたいです。

友だちに、たすけてもらったこともあります。かん字がわからなくて、こまっていると

き、友だちが、かん字をおしえてくれました。学校が楽しいのは、友だちがいるからです。もっと、友だちをつくっていきます。

